

滑稽俳句協会11月号会報より見つけた滑稽句。

ふと思ふ案山子が声を出せたらと 田村米生

その内にロボット案山子が出現して雀を一喝したり
夜歩きの人を驚かしたり。
だんまりの案山子が退屈そうに見えた作者。
想像は自由です。そして滑稽が生まれます。

雀らと呼ばひ寄せてゐる案山子の眼 加藤 賢

へのへのもへじでは雀に馬鹿にされそう。
いやいやイケ面かも。鬼面。妖怪、はたまた原子炉ならいかが？
雀も進化してます。

虫の音の噴出してゐる野分後 日根野聖子

台風の際は声を殺している虫たちが、台風後に一斉に鳴き出したことを
「噴出した」との比喻に、虫の勢いと歓喜が伝わる。
噴出し笑いにもとれて、作為のない滑稽俳句となった。